

新たに寄贈された重要文献

大山桂貝類学文庫

鳥羽水族館（三重県鳥羽市）では、大山 桂博士（1917-1995）収集の貝類学文庫を所有している。大山博士は海軍省マカッサル研究所（太平洋戦争中にインドネシアに置かれていた日本の科学研究機関）などを経て、戦後に地質調査所の調査員となり、退官後は鳥羽水族館の研究員を務めた貝類学者である。文庫は博士が自身の研究のために個人で収集した膨大な貝類学の書籍・学術雑誌からなる。18～19世紀の西洋で発刊された貝類図譜を初めとして、この分野の研究に欠かせない重要な文献が網羅されており、貝類学では東アジア最大級の文庫である。

博士の没後、文庫は鳥羽水族館が保管していたが、長期保存により適した環境に置くとともに、調査研究・普及教育目的での利用を促進するため、この度一

括して当館に寄託された。分量は書架延長で約270メートルに及び、現在一般収蔵庫内で保管している。当館では今後、整理を進めながら文庫の目録を作成していく予定であり、調査研究目的での閲覧希望には随時可能な範囲で対応していきたいと考えている。

なお、今回の寄託を受けて、文庫の中から代表的かつ貴重な文献を紹介するミニ展示「大山桂貝類学文庫の貝類図譜」を平成26年10月18日（土）から11月9日までナウマンホールで開催した。



▲ 図1：大山桂博士



▲ 図2：Neues Systematisches Conchylien-Cabinet (F. H. W. Martini and J. H. Chemnitz, 1769-1829) ドイツで18世紀から19世紀にかけて発刊された、全12巻からなる貝類図譜。国内の図書館や研究機関には収蔵されていない、極めて貴重な図書。



▲ 図3：Index Molluscorum Maris Japonici (W. Dunker, 1882)：ドイツの地質学・貝類学者ドゥンケルがまとめた、日本の海産貝類のモノグラフ。約3000種が掲載され、日本の貝を研究する上で欠かせない文献の一つ。



◀ 図4：当館での収蔵状況（一部）



▲ 図5：ミニ展示の様子